

1 研究テーマ 「子どもと共に創る授業のあり方の追求」

一人一人が表現の喜びを味わう図工美術学習のあり方～紙人形の制作を通して～

2 研究内容

(1) 公開研究授業

**期 日** 平成 24 年 11 月 7 日 (水)

**授業学級** 森上小学校 二年仁組 **授業者** 早野愛里先生

**助言者** 須坂市教育委員会指導主事 山岸深志先生

**題材名** 『カラフルなキャラクターを作ろう』

**授業場面** 人形劇に使用するキャラクターを考え、四つ切り画用紙いっぱいクレヨンで線描きした子どもたちが、色とりどりにクレヨンで区切ったキャラクターを区切った隣の部屋が同じ色にならないように考え、水彩絵の具でぬっていく場面。

(2) 研究内容

**つまずきの把握** 筆に含む水の量が多すぎてにじんだりはみだしたりする。混色して思う色が作れない。色数多く混ぜすぎたり、乾くのを待たずに重ねたりで色がにごる。

**興味・関心を引き出すために** 人形劇に用いるキャラクターを作る。班で話し合い、キャラクターの登場場面や、性格を考える。カラフルな色ぬりを楽しむ。

**一人一人が着実に学ぶために**

(1) 色作りの習作学習をする。(有彩色に白や黒を混ぜる。三原色を混色する。)

(2) 用具の使い方の基礎を習熟する。

パレット→すぐに使わない色も順番に並べ出しておく。広い部屋で混色する。

筆洗→筆を洗う水と絵の具にまぜる水を分ける。

水分の調節→筆布で水筆をふき、水分量を調節する。

(3) キャラクターの設計図を作る。(制作への見通しを持つ。)

(4) クレヨンでの区切り線を入れる。(配色の計画。隣と混じりにくくする。)

### 3 研究の成果

#### (1) 授業の様子

四つ切り画用紙いっぱいに思い思いに描かれたキャラクターが、色とりどりにクレヨンで区切られている。パレットの小部屋には順序よく絵の具が並べられている。絵の具の使い方と塗り分け方の確認をした後、子どもたちは、ためらうことなく絵の具を使いはじめ、30分ほどの間に、一人をのぞいた全員が着彩を終えた。区切りの数が他の子と比べてとびぬけて多かったため塗り終わらなかった一人も、およそ30個の区切りの中を塗り分けるとても集中した制作だった。途中、混色の仕方を教え合ったり、お互いの作品の良さを認め合ったり、自然な学び合いがなされていた。終末での作品鑑賞では、色彩の美しさや変化の付け方の工夫に触れることが出来た。



#### (3) 成果と課題

人形劇に使うキャラクターにクレヨンで区切り線を入れ、絵の具で着彩する教材化の工夫や、水加減や混色法など基礎をpushさせた学習により、水彩表現の喜びを十分に味わえた。表現の道筋や学習過程の中での評価を大事にし、つまずきへの適切な支援を考えていくことが、子どもと共に創る授業につながるなどのご助言をいただいた。



### 4 来年度への課題

- (1) 発達段階に応じた基礎基本の見きわめと定着を図るための教材化の工夫。
- (2) 子どもたちにとって必要感があり、学習効果がある鑑賞場面の設定。